

令和6年7月16日

貝塚市議会議長

食野 雅由 様

視察報告

報告者:八野裕嗣

参加者:長谷川博文、中川剛、中西真知子、蓮池陽佑、八野裕嗣

海南省図書館「ノビノス」及び、旧海南第一中学校跡地「海南スポーツセンター」の状況について

開始日:令和6年7月10日

●海南省図書館「ノビノス」について

海南省では、庁舎の高台移転に伴って、中心市街地に市役所の跡地ができた。そこに令和元年「ノビノス」の名称で新図書館を建設。従来の本だけ貸していればいいという発想から大転換し、「にぎわいの創出」を目的に「静かにしないといけない」エリアを限定し、音出し OK で図書館の敷居を低くした。また、子育てスペースやカフェ、貸し会議室や音楽室などを併設することにより市民に興味を持ってもらう仕掛けを多数設ける。蔵書は 150,000 冊を誇り、うち 25,000 冊を絵本が占めるなど、子育てや子ども達を強く意識したものとなっている。

従前の図書館(2館)の利用人数の合計が約 62,000 人だったのに対し、ノビノス開館後は 600,000 人に迫る勢いとなり約 10 倍の利用者数となっている。学校長期休暇中には学生たちが開館前に長蛇の列を作る光景がお馴染みとなるなど、多くの市民に愛されている。図書館は従前の本の貸し出し施設から、多世代交流拠点としての役割を持つ施設として全国的に認識が改まってきている。図書館のトップランナーとしての「ノビノス」は当市においても目標とすべき成果を多数挙げていると感じた。今後も注目し、当市の参考としていきたい。



●旧海南第一中学校跡地「海南スポーツセンター」について

海南市では、平成 23 年度末に旧海南市立第一中学校が第二中学校と統合のため閉校した。その後、平成 24 年度に地元との対話を通してスポーツ施設を建設することが決まる。平成 27 年に「紀の国わかやま国体」の開催が決定していたこともあり、その際に予想される宿泊施設不足やもともと機運の高かったスポーツ施設を併設することで、旧中学校の校舎や体育館、運動場をそのまま使用することができた。

平成 24 年度に地元と協議をしたが、地元との会議は公式には2回だけ。公式の議事録以外は分からないことも多いが、先に何度かヒアリングを重ね、スポーツ施設で行く旨のコンセンサスを得ていたのではないかとのこと。この2回の説明会では特に反対意見が出ることもなく、スムーズにいった記録が残っている。市からスポーツ施設として活用したい旨の提案を行ったようとのこと。

施設オープン後は市内のスポーツクラブや県外の学校の合宿などによく利用され、コロナ禍での低迷期はあったが、コロナ後は持ち直して堅調に営業を続けている。市としては指定管理者にお金を支払い、スポーツ施設の収益を市に返還、宿泊施設の費用を指定管理者の利益とすることとしている。それだけで見ると指定管理者への費用が収益で返還される費用を上回っているが、旧第一中学校が幹線道路に面していたこともあり、一部の土地を民間に貸し出しているのもあって、ほぼ持ち出し無しで運営できているとのことであった。

当市も今年度二色小学校と第五中学校が統合し、第五中学校跡地の活用をめぐる議論が重ねられているが、閉校後も卒業生や地域に愛され続ける施設として残り、かつ財政負担にならない活用法の一例として、参考に出来ればと思う。

